

2007年12月期中間決算説明資料



サイオステクノロジー株式会社

(東証マザーズ:3744)

2007年8月1日

Contents

- 2007年12月期中間決算概要
- 2007年上期の振り返り
- 2007年下期以降の新戦略
- 2007年12月期業績見通し



2007年12月期中間決算業績の概要（連結）

- SteelEye社の業績を連結し、売上高は前年同期比24.5%増の2,956百万円となった。
- 売上総利益率は利益率の高いSteelEye社製品LifeKeeperの貢献で42.7%（前期実績29.5%）に上昇し、売上総利益は前年同期比80.1%増の1,263百万円となった。
- 販売費及び一般管理費はSteelEye社の販売管理費とのれん償却等が加わり88.0%増の1,228百万円となったが、経常利益は30百万円（期初予想△39百万円）となった。EBITDAは前年同期比276.7%増の231百万円の黒字となった。
- 中間純利益は大塚商会グループの退職給付制度の変更に伴う同基金脱退による企業年金基金脱退損44百万円及び、法人税等で48百万円の計上があり△65百万円となった。

※EBITDA・・・営業利益＋減価償却額＋のれん償却額

2007年12月期 中間期業績

〔単位：百万円〕	連結					単体				
	2006年12月 期中間実績	2007年12月 期中間実績	前期比 伸長率 (%)	当中間期 業績予想 (H19.2.1公表)	予想比 伸長率 (%)	2006年12月 期中間実績	2007年12月 期中間実績	前期比 伸長率 (%)	当中間期 業績予想 (H19.2.1公表)	予想比 伸長率 (%)
売上高	2,375	2,956	24.5%	2,840	4.1%	2,375	2,647	+11.5%	2,547	+3.9%
〈Linux関連事業〉	<1,830>	<2,481>	35.5%	—	—	<1,830>	<2,171>	+18.6%	—	—
〈Java関連事業〉	<544>	<475>	-12.7%	—	—	<544>	<475>	-12.7%	—	—
売上総利益	701	1,263	80.2%	—	—	701	796	+13.5%	—	—
販売費・一般管理費	653	1,228	88.0%	—	—	653	656	+0.4%	—	—
営業利益	48	35	-26.7%	—	—	48	140	+190.6%	—	—
経常利益	47	30	-34.6%	-39	—	47	129	+176.5%	46	+181.6%
中間純利益	-31	-65	—	-64	—	-31	45	—	27	+65.4%
EBITDA	61	231	276.7%	160	44.8%	—	—	—	—	—

※EBITDA・・・営業利益＋減価償却額＋のれん償却額

単体業績

[単位:百万円]

サイオス単体 2007年12月期中間 実績

SteelEye単体 2007年12月期中間 実績

売上高	2,647	467
〈Linux関連事業〉	<2,171>	<467>
〈Java関連事業〉	<475>	—
売上総利益	796	467
販売費・一般管理費	656	409
営業利益	140	58
経常利益	129	63
中間純利益	45	52



Linux関連事業について

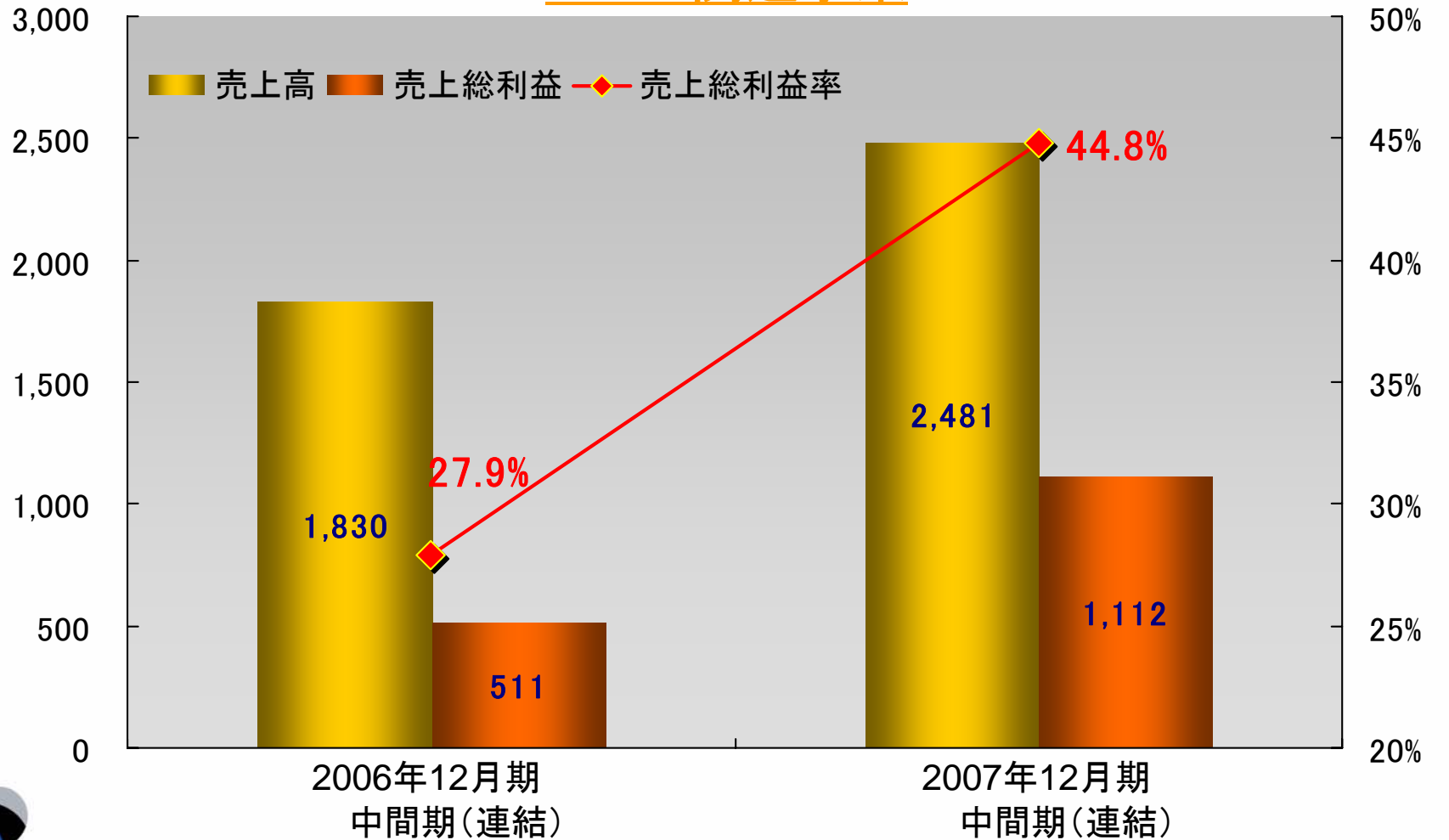
- Linux関連事業全体では売上高は前年同期比35.5%増の2,481百万円となった。
 - ソフトウェアビジネス—Linux及び関連ソフトウェアの販売
LifeKeeper 及びRed Hat Enterprise Linuxの好調な販売に加え、SteelEye社を連結したことにより、売上高は前年同期比40.8%増の1,782百万円となった。
 - SIビジネス—Linux等のシステム構築、コンサルティング、サポート
Red Hat Enterprise Linuxの2年目以降のサポート契約売上が増加し、前年同期比56.5%増の605百万円となった。
 - サーバービジネス—自社・他社ブランドのサーバー販売
売上高は大手サーバー・ベンダーとの競争激化により前年同期比47.5%減の93百万円となった。



事業別売上高・売上総利益

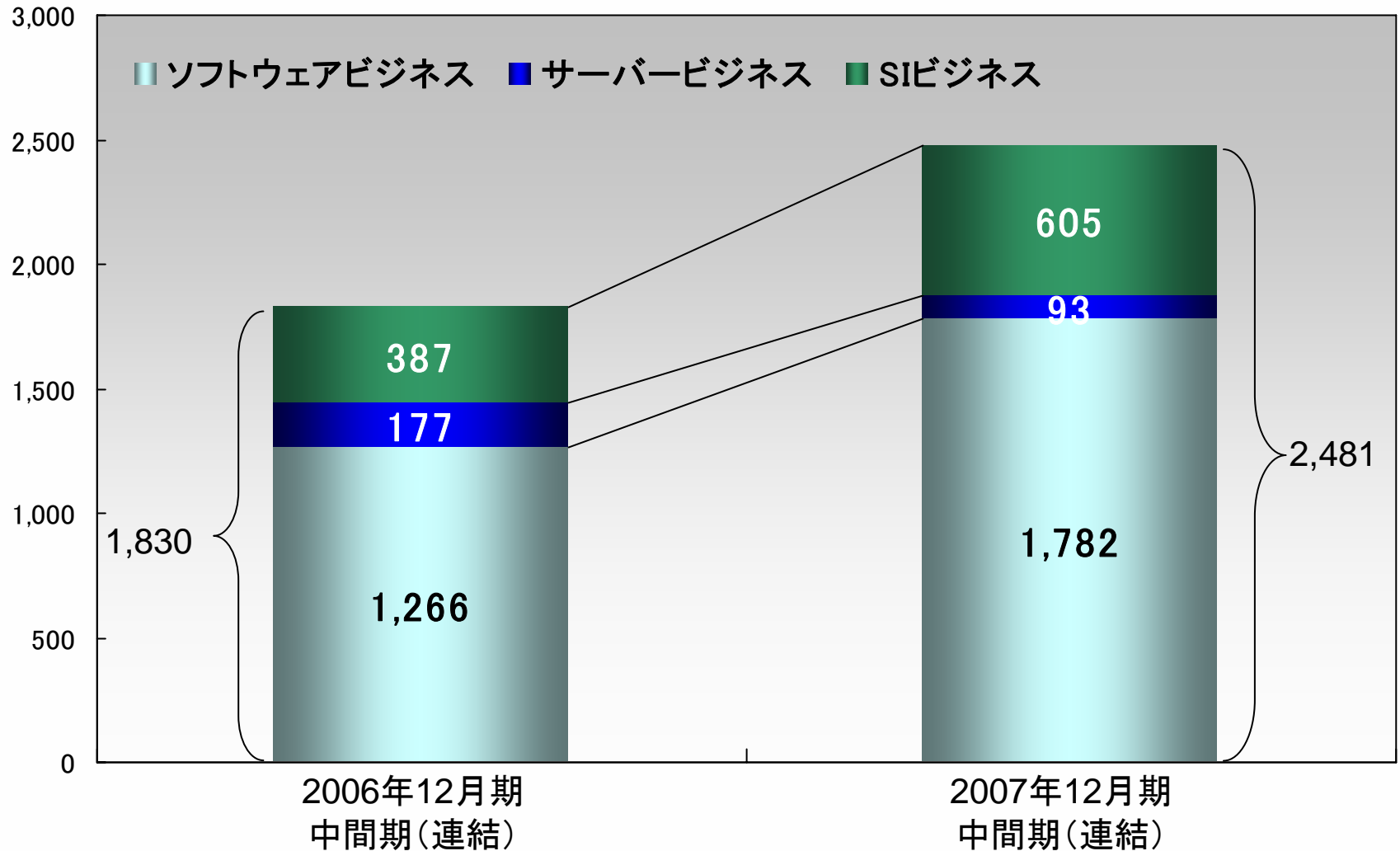
Linux関連事業

[単位:百万円]



Linux関連事業売上高の内訳

〔単位：百万円〕



Java関連事業について

- 売上高は前年同期比12.7%減の475百万円となった。
- ソフトウェアビジネス—Webアプリケーション製品及びプログラム検証ソフトウェア等の開発・販売。

売上高は輸入商品であるAgitator と protexIP及び自社製品であるSales Force Automation+が伸長し、前年同期比25.3%増の134百万円となった。

営業効率改善ソフトウェア Sales Force Automation+
オープンソースのJavaフレームワークソフトウェア Ninja-VA
帳票作成ソフトウェア WebReportCafe
プログラム検証ソフトウェア Agitator , protexIP 他

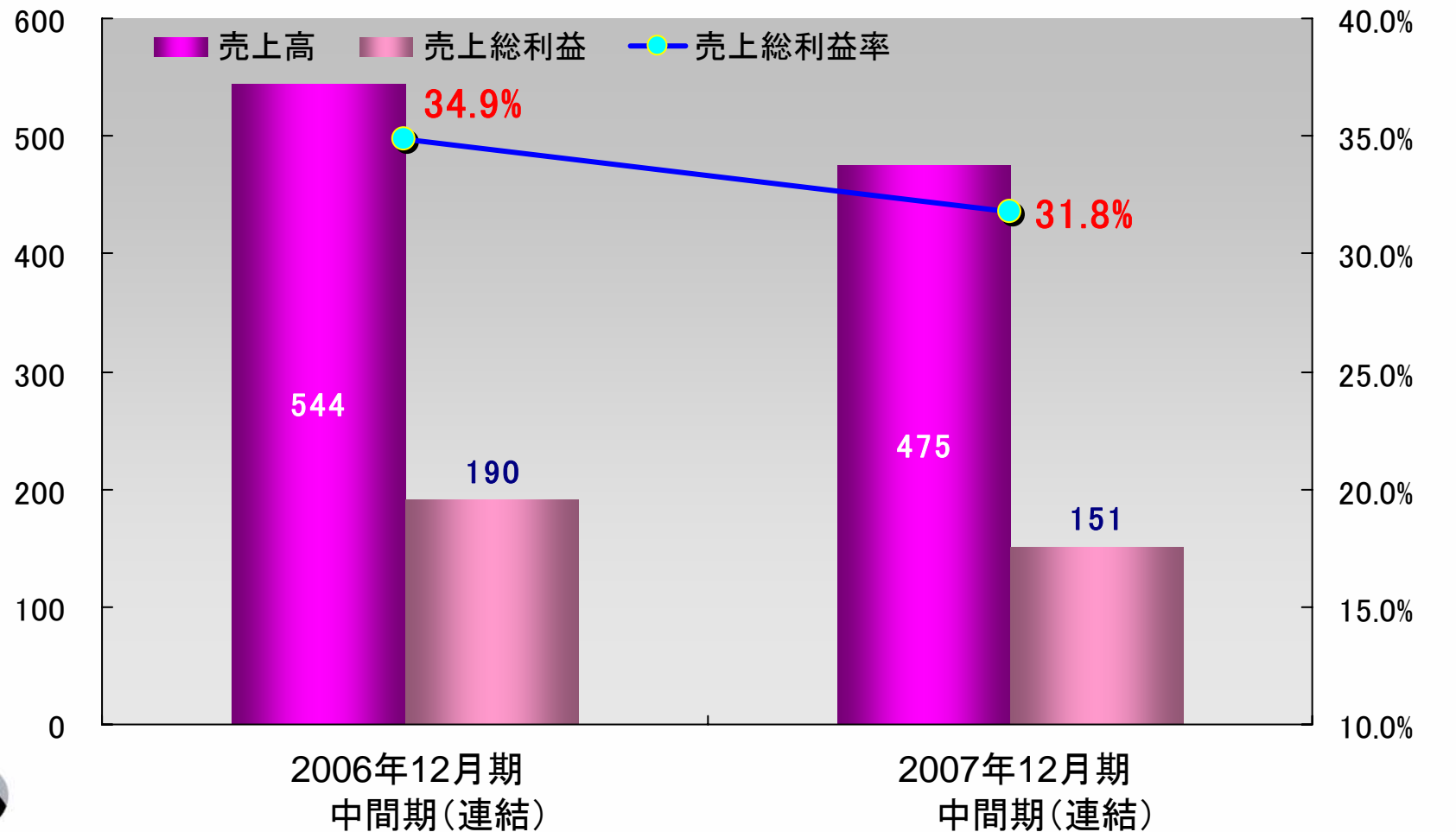
- SIビジネス—Javaの受託開発、コンサルティング、教育
売上高は利益率の高い案件の受注徹底により、前年同期比22.0%減の340百万円 となった。



事業別売上高・売上総利益

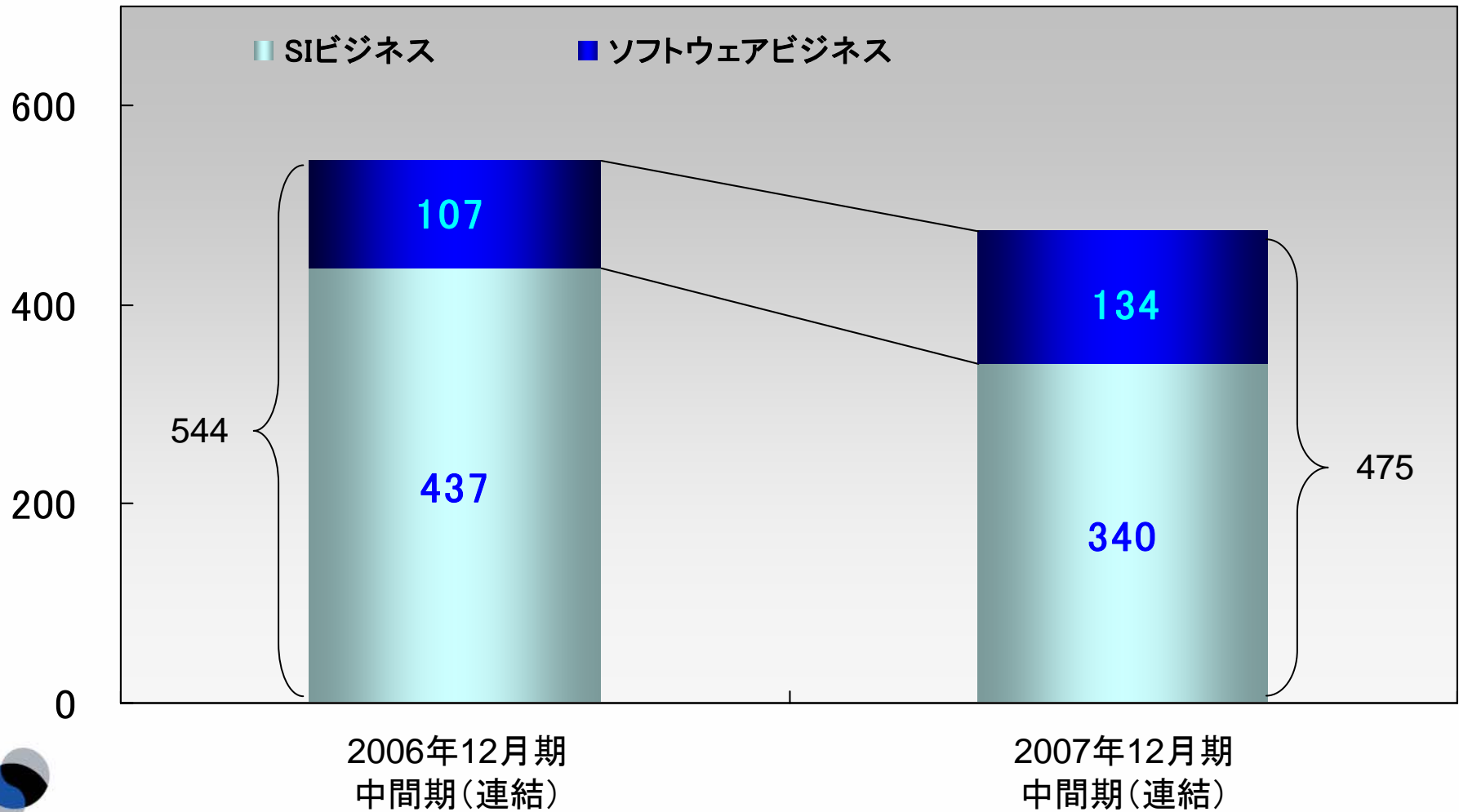
Java関連事業

[単位:百万円]



Java関連事業売上高の内訳

[単位:百万円]



2007年12月期 中間期末貸借対照表

[単位:百万円]	連結			単体		
	2006年12月期 中間期	2007年12月期 中間期	増減	2006年12月期 中間期	2007年12月期 中間期	増減
流動資産合計	2,642	3,458	816	2,423	3,014	591
固定資産合計	2,216	2,132	-83	2,265	2,384	119
資産合計	4,859	5,591	732	4,688	5,399	711
< 短期借入金 >	700	0	-700	700	0	-700
<1年以内返済予定長期借入金>	0	250	250	0	250	250
流動負債合計	1,991	2,136	145	1,820	1,848	27
< 長期借入金 >	1,000	750	-250	1,000	750	-250
固定負債合計	1,054	787	-267	1,054	787	-267
負債合計	3,046	2,924	-121	2,875	2,635	-239
純資産合計	1,813	2,667	854	1,813	2,763	950
負債純資産合計	4,859	5,591	732	4,688	5,399	711



2007年12月期中間期キャッシュ・フローの状況

[単位:百万円]	2006年12月期 中間期 連結	2007年12月期 中間期 連結	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	148	24	△124
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,874	△41	1,832
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,675	△39	△1,714
現金及び現金同等物に係る為替差額	-	12	12
現金及び現金同等物の増加額	△50	△44	6
現金及び現金同等物の期首残高	734	1,360	625
現金及び現金同等物の期末残高	684	1,316	632



Contents

- 2007年12月期中間決算概要
- 2007年上期の振り返り
- 2007年下期以降の新戦略
- 2007年12月期業績見通し



- 「サイオスOSSよろず相談室」を新設（5月）
- SteelEye社に2名の社外取締役を招聘（5月）
- LifeKeeperビジネスパートナープログラムに51社が参画（6月）
- オープンソースのプロジェクト管理ソフトウェア「ProjectKeeper」を公開（7月）

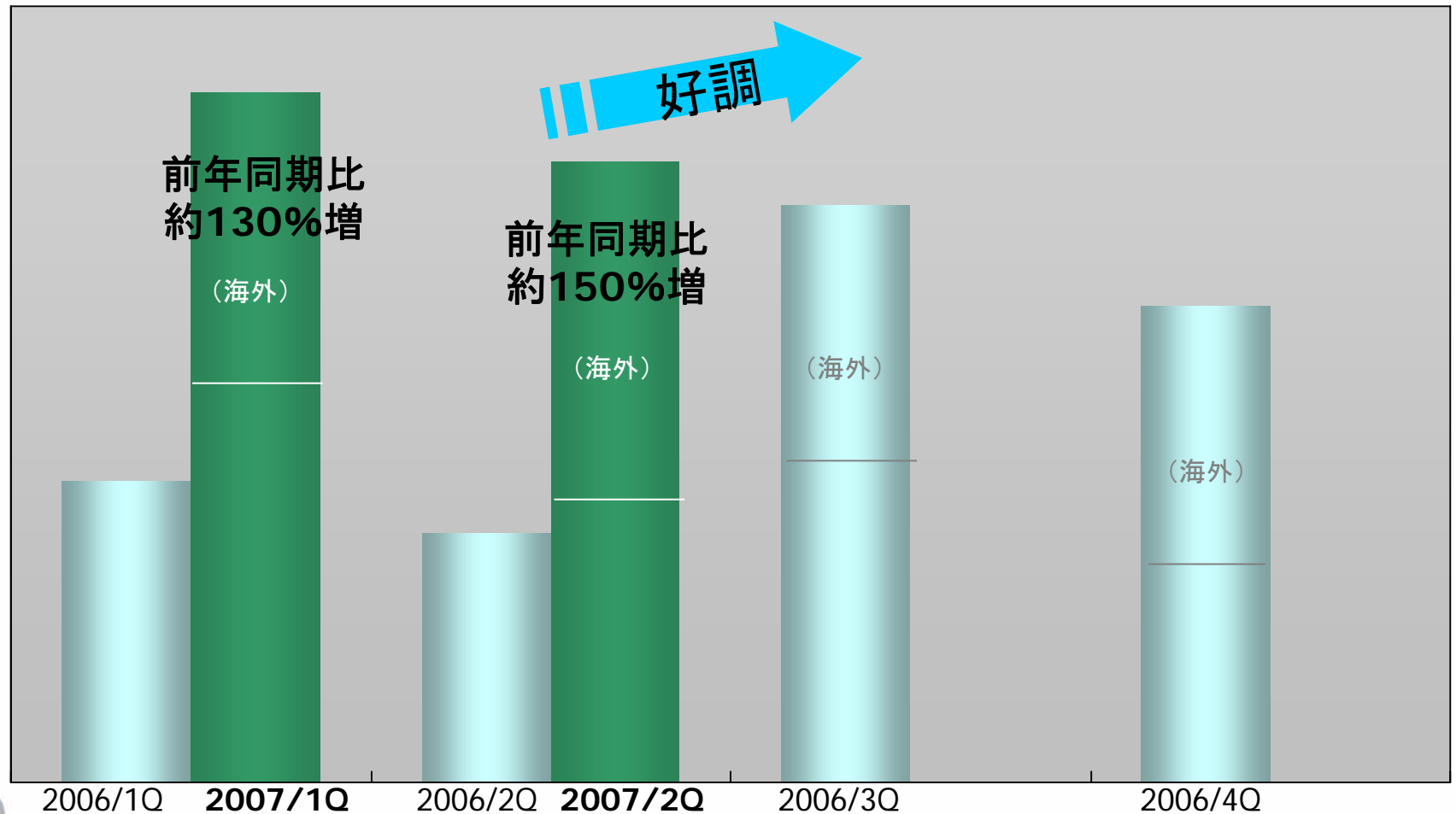
サイオスの強みを活かした基本戦略

- 既存事業の強化
- 新製品の開発と発売
- グローバルビジネスの拡大



既存事業の強化 「LifeKeeper」売上高の推移

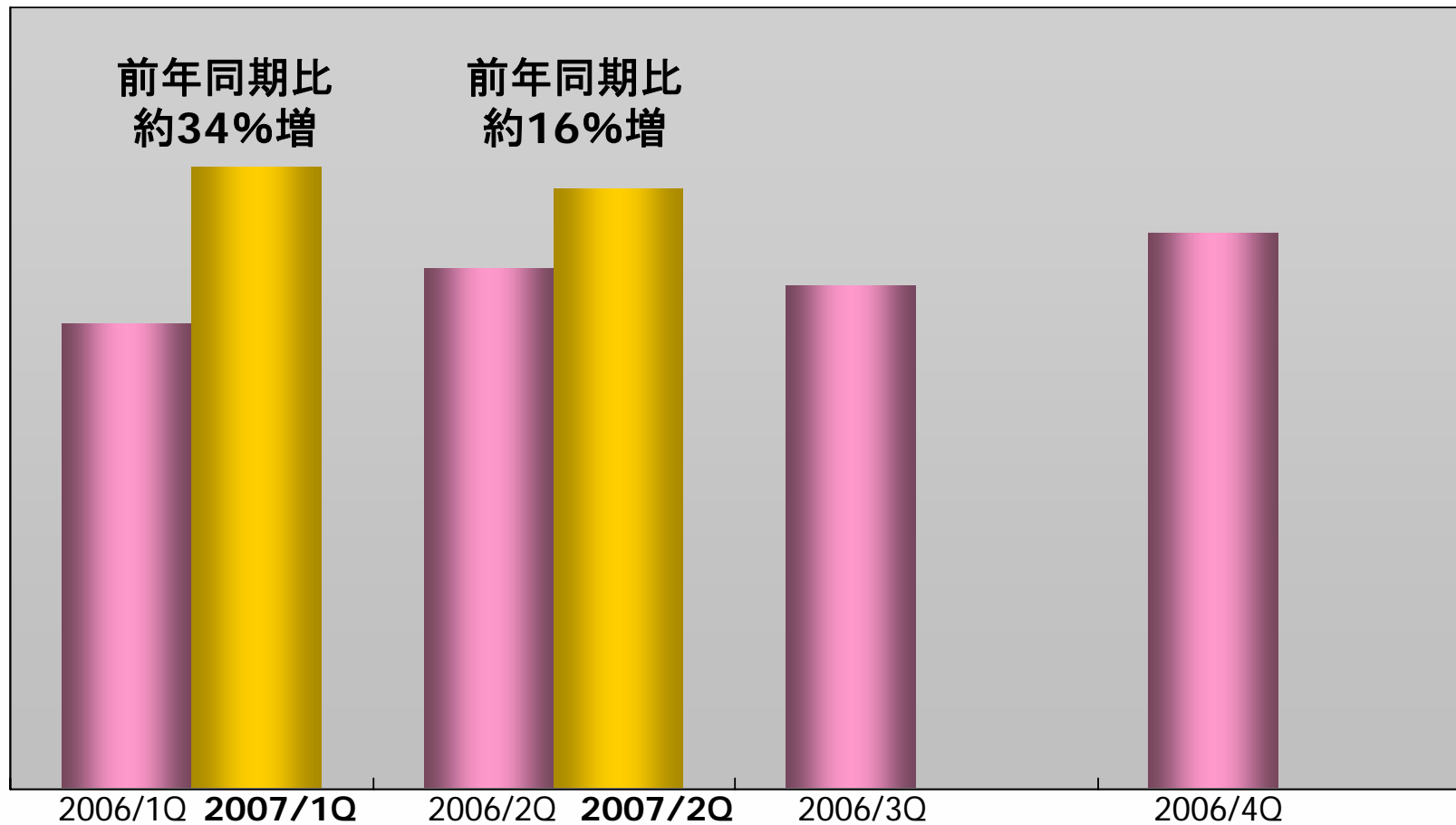
- SteelEye社買収で、LifeKeeper売上高が好調に推移



既存事業の強化

「Red Hat Enterprise Linux」獲得契約数の推移

- 獲得契約数は昨年同期と比べ増加
四半期毎の獲得契約数



新製品の開発と販売

SIOS Application ProjectKeeper

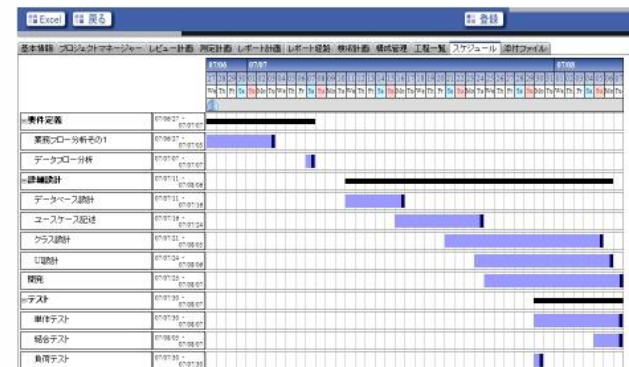
コンセプト

- 誰もが**使いこなせる**ことを重視し、機能を絞り込んで統合
- オープンソースソフトウェアとして公開し、サポートサービスを開始予定

機能

- **プロジェクトスケジュール**
- **プロジェクト実績入力**
- **ダッシュボードによる管理**
- **管理グラフ作成**
- **帳票作成**
- **マスタメンテナンス**

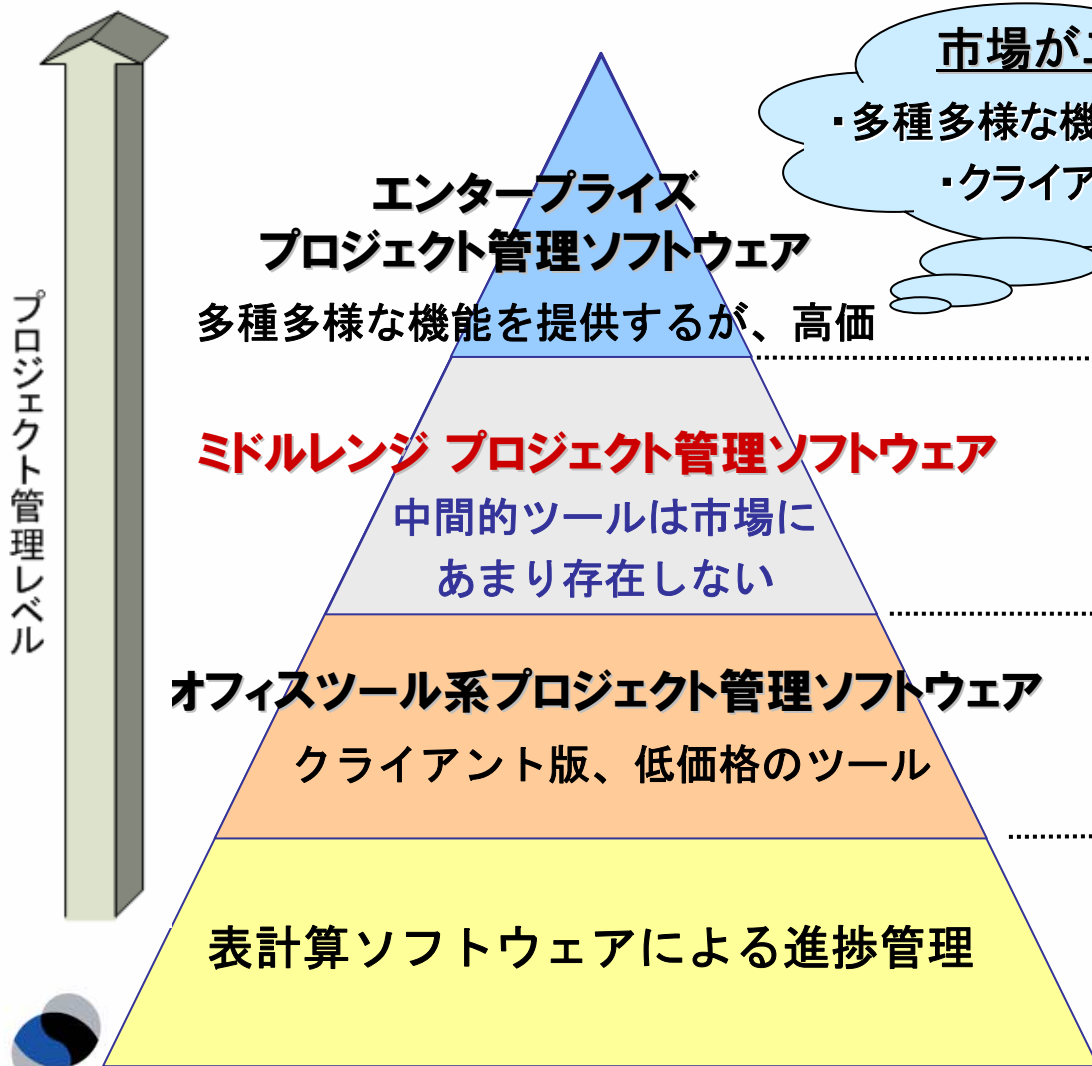
【プロジェクトスケジュール管理】



【ダッシュボード】



ProjectKeeper のターゲットユーザー



市場が二分化されている

- ・多種多様な機能を持つ高価な製品(1000万円クラス)
- ・クライアント版の安価な製品

ProjectKeeper の ターゲットユーザー

- ・クライアント版ソフトウェアで進捗管理を行なっている
- ・サーバー対応のソフトウェアにしたいが、高価で導入に踏み切れない

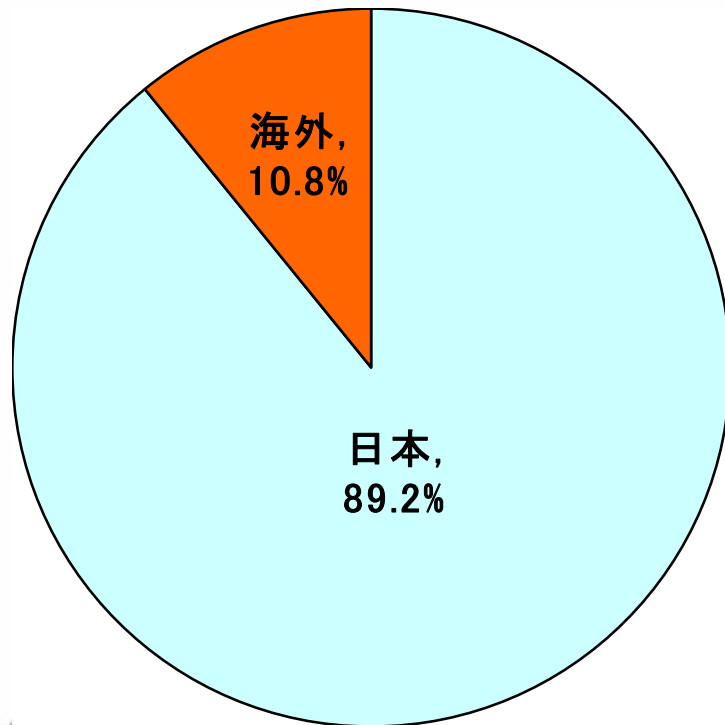
- ・案件の進捗管理に表計算ソフトウェアを使用している。

グローバルビジネスの拡大

連結売上高に占める海外売上高の割合

(2007年上期実績)

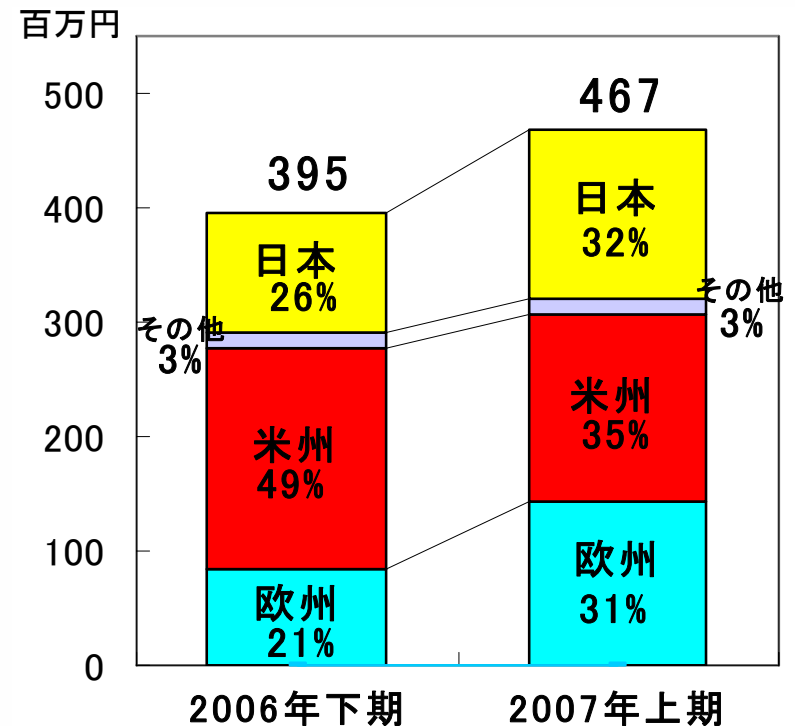
《海外売上高が1割》



SteelEye社の地域別売上高構成

(2006年下期・2007年上期実績)

《日・米・欧にグローバル展開》



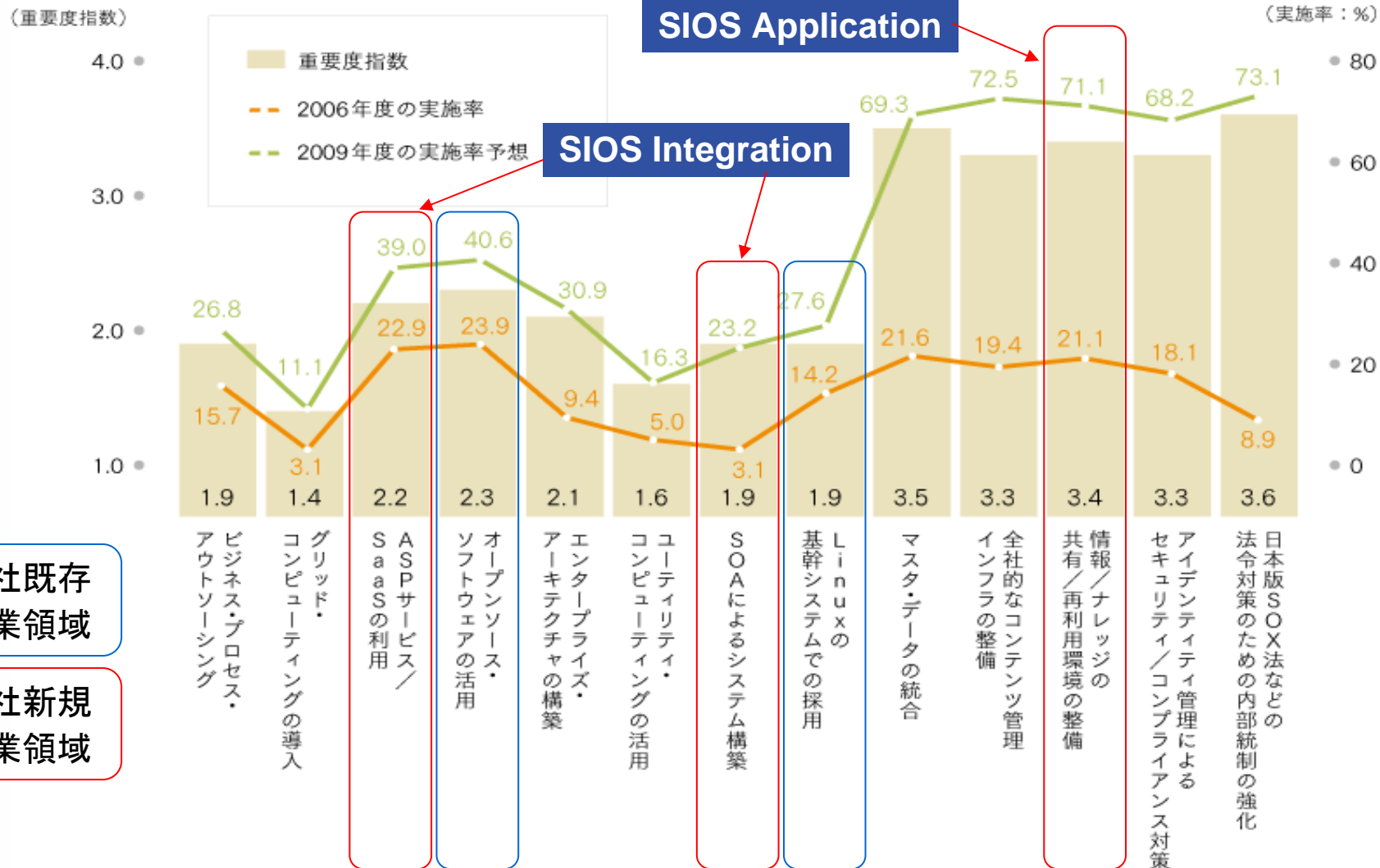
Contents

- 2007年12月期中間決算概要
- 2007年上期の振り返り
- 2007年下期以降の戦略
- 2007年12月期業績見通し



企業のIT投資動向と当社の取り組み

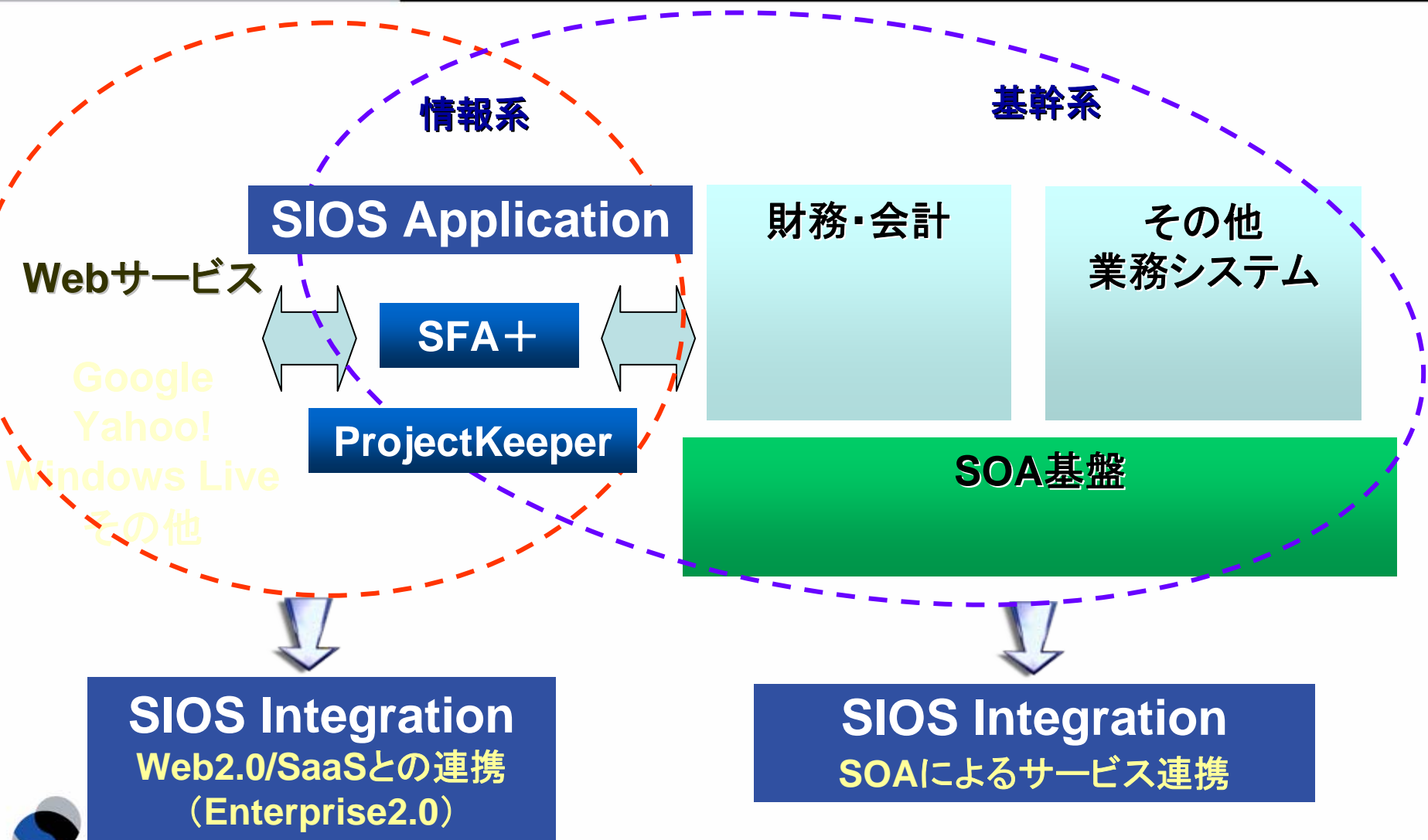
出典：「CIO Magazine IT投資動向調査2007」



当社既存
事業領域

当社新規
事業領域

新規領域へ事業拡大



SIOS Integration

■ 導入事例

- 日本大学
- Google Apps Education Editionの導入とシステム構築
 - ユーザー数: 学生10万人
 - ユーザーIDを大学側で管理する仕組みを開発、導入
大学側でのリスク管理を実現
- 2007年4月、Googleと日本大学が導入を発表
 - 多くのメディアが注目するニュースとなった

Contents

- 2007年12月期中間決算概要
- 2007年上期の振り返り
- 2007年下期以降の新戦略
- 2007年12月期業績見通し



2007年12月期業績見通しの概要（連結）

- 売上高は前年同期比13.1%増の5,800百万円、売上総利益は前年同期比43.0%増の2,497百万円を目指す。
 - 利益率の高いLifeKeeperを始めソフトウェア製品の販売に注力する。
 - ▶ 売上総利益率：43.1% (前期34.1%)
- 営業利益22百万円(前期△13百万円)の黒字化を目指す。
 - ▶ 販売費及び一般管理費の伸び率の圧縮を図る。
- 当期純利益
企業年金基金脱退に伴う特別損失44百万円等により当期純利益は△110百万円の予想。

2007年12月期業績見通し（連結）

〔単位：百万円〕

連結

	2006年12月期 実績(A)	2007年12月期 前回予想(B)	2007年12月期 今回予想(C)	前年同期比増減		予想比増減	
				(C)－(A)	伸長率	(C)－(B)	伸長率
売上高	5,125	5,800	5,800	674	13.1%	0	0.0%
<Linux関連事業>	4,014	4,688	4,880	865	21.6%	192	4.1%
<Java関連事業>	1,111	1,112	920	-191	-17.2%	-192	-17.3%
売上総利益	1,745	2,478	2,497	751	43.0%	19	0.8%
販売費・一般管理費	1,759	2,462	2,475	715	40.7%	13	0.5%
営業利益	-13	16	22	35	-	6	37.5%
経常利益	-16	4	10	26	-	6	150.0%
当期純利益	-184	-81	-110	74	-	-29	-
EBITDA	184	408	405	221	120.3%	-2	-0.6%

※EBITDA・・・営業利益＋減価償却額＋のれん償却額

2007年12月期業績見通し（単体）

[単位:百万円]

単体

	2006年12月期	2007年12月期	2007年12月期	前年同期比増減		予想比増減	
	実績(D)	前回予想(E)	今回予想(F)	(F)-(D)	伸長率	(F)-(E)	伸長率
売上高	4,843	5,180	5,180	336	6.9%	0	6.9%
<Linux関連事業>	3,732	4,068	4,260	527	14.1%	192	14.1%
<Java関連事業>	1,111	1,112	920	-191	-17.2%	-192	-17.2%
売上総利益	1,353	1,525	1,540	186	13.8%	15	13.8%
販売費・一般管理費	1,273	1,369	1,380	106	8.4%	11	8.4%
営業利益	79	156	160	80	100.1%	4	100.1%
経常利益	72	144	148	75	104.6%	4	104.6%
当期純利益	-84	85	55	139	-	-30	-

ご注意

業績予想につきましては、現在入手している情報に基づいた当社の判断であり、不確定要素を含んでおります。実際の業績は、様々な要素により業績見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向などが含まれております。但し、業績に影響を与え得る要素は、これらに限定されるものではありません。